

〔愛する皆さん、〕ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあ〔ります。〕上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実には満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。-ヤコブ16章-

真人間になる

十数年前、介護が必要になった母を、兄弟4人が当番制でお世話することになった頃のこと。わたしの当番の日、母から言われました「おまえ私のために祈れ」と。「お母さん何を祈るの？」と聞きますと「私がぼっくり病でコロッと早く死ねるように祈れ」と言うのです。「お母さん、僕はお母さんが100歳でも150歳でも長生きしてほしいね。僕の力になるから」と答えますと、「あほなこと言うな。こんな年寄りが長生きして、若い人に迷惑かけて何がええことやネン、早う死ななあかんネン」と、「姥捨て山」の精神がしっかり生きている母でした。

99歳で母が逝ったとき、長寿を決して良しとしなかった母が、不自由な身でここまで生かされた意味は何だったのか考えたとき、気づかされたのは、不肖の息子である私が、母の介護を全うに果たす「真人間」になるための教材となるために、神に身を捧げて最後の奉仕をしているという姿でした。

当時私が持っていた「真人間」の三つの条件は ①貧しさが苦にならない ②関りは相手サイドで ③誰とでも平和を築く生き方でしたが、それが実現できないでいる私でした。すなわち、すべての貧しさを厭うて、豊かさに安住しようとする私。自分サイドで母の介護に関わっていた時の自己満足が、相手サイドになってたちまち崩れ去って怒りに変わる私。このような価値観では世界の平和は到底実現不可能な私でした。

傍目には、親の介護に通う私を人は「エライねえ」と褒めてくれますが、介護に身を任せている母の方が、それ以上に神に奉仕しているのだと気づかされ、手を合わす心をいただきました。

母のベッドサイドで、時々「おかあさん おかあさん…」と、母の声を耳にしました。私は思わず「なあに？」と応えて上げましたが、今、天国の母は、マリア様に抱かれて気づいたことでしょう。「私が『お母さん』と呼んだ母はマリア様あなたでしたか！」と。

生前、器用に何でもこなしてきた母が、ベッドの人になったとき、赤ちゃんになって母を呼んでいた姿を私は忘れないでしょう。小さなものになった私たちの保護者はマリア様、そしてイエス様だと気づかされたからです。

死よりも老いを恐れる風潮のある昨今ですが、老いを恐れることはありません。老いをいただくことは神さまの保護のもとにある恵みの時だからです。2021年9月19日主任司祭 昌川信雄

